
国内客員研究員フィールドレポート

奄美大島のコウモリを追いかけて

帯広畜産大学 環境農学研究部門 浅利裕伸

奄美大島で「野生動物の研究」というと、多くの人はアマミノクロウサギが頭に浮かぶと思います。私もその一人で、ここ最近ではアマミノクロウサギの交通事故（ロードキル）対策に関する研究や採食物の季節変化について調べています。しかし、アマミノクロウサギの研究に関わる前から継続して調べている動物がいます。それは“コウモリ”です。ちょっとしたきっかけで5年ほど前に奄美大島に立ち寄った際に、島内を案内してもらった中で野生動物（哺乳類）の研究がほとんど行なわれていないことを知りました。特に、コウモリに関しては数種が生息しているという情報しかありませんでした。コウモリは夜行性で多くの種が小型であるため、普通に生活していると見つかることはまずありません。研究では、コウモリの超音波を聞く機械や捕獲によって生息する種や分布を知ることができですが、奄美大島ではこのような調査がほとんど行なわれてきませんでした。日本に生息する小型のコウモリは、森林内や河川で昆虫を捕食し、樹洞や洞穴などをねぐらとしていますが、大規模な森林伐採といった開発による生息環境の変化は餌不足やねぐら環境の消失などコウモリへの影響を与えます。

その影響を評価するためにも島内の現状を明らかにしておく必要があることから、私は島全域において生息種と分布を調べることにしました。2年ほどかけて概ね全域で捕獲調査を行ない、過去の資料と合わせて少なくとも8種が生息していること、北部での生息種が少ないことなどを明らかにしました。また、生息種の中にはこれまで知られていない種の存在も明らかとなり、現在種の同定を行なっています。前述したとおり、コウモリは人の目につきにくい生き物ですが、種によっては民家や小屋の屋根裏や壁の隙間など、意外と身近な場所に暮らしています。山林ではトラップを用いて生息種と分布を調べてきましたが、民家などに生息する種の情報を得る必要があります。そこで、新聞に情報を求めるコメントを掲載したり、ビラを一軒一軒配って回ったりしたところ、いくつかの新しい生息場所を教えていただいたこともあります。

私は現在、コウモリの生態を明らかにするための発信機調査、アマミノクロウサギの生態調査も実施しています。明らかになった知見は研究成果として発表するだけでなく、ぜひ島の方々にも島の生き物の面白さを伝え、島の財産として思ってもらえればと考えています。



トラップで捕獲されたリュウキュウ
テングコウモリ。林の中をひらひら
と飛翔しながら昆虫を食べて暮らし
ています。

(4) 島嶼研だより No. 79



発信機を装着したコウモリの追跡調査風景。追跡しているこのコウモリは小屋や建物などもねぐらとしています。